

V-2 学力向上推進計画

1 目標

「生徒の学力を全国水準に高め、維持する（R2～R4年度）」

- (1) 学力向上の取組の重点を「授業改善」におき、子どもたちにこれから必要とされる資質・能力を育成し、確かな学力の向上を図る。
- (2) 互いに高め合える集団づくり・自主性を高める取組の充実を行う。
- (3) 小学校・家庭・地域と連携協力し、学習を支える力の形成を図る。

2 方針

- (1) 『学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ』、『「問い」が生まれる授業サポートガイド』・『「問い」が生まれる授業サポートガイド 補完版授業改善ツール』に掲げられている「授業における基本事項」を推進要項(計画)に位置づけ、南城市教育委員会と連携した具体的な計画「学力向上年間サイクル」を作成して取り組む。
- (2) めざす授業像を共有し、学びを支援する授業を展開できるよう、校内研修、教科会・学年会および授業研究会の充実、小学校との連携等、組織的な取り組みを計画的に実践する。
- (3) 各学年で身につけるべき内容を確実に定着させ、「育ちの姿」をイメージしながら学年のたすきをつなぐ取り組みを充実する。
- (4) 学力調査の結果分析を適時行い、本校・学年・教科の課題や傾向、および特に支援が必要な生徒を把握し、データを活用した授業改善や補習・家庭学習指導等を行う。

3 取組の重点(方針の具体化)

- (1) 校外・校内研修と教科会・学年会を連動させ、目指す授業像の共有により授業改善・授業力向上を図るとともに、その具現化として一人一公開授業および研究授業参観の徹底を行う。
- (2) 職員全体の共通理解のもと、日常の授業の中で共通実践事項の徹底を行い、学習規律・支持的風土の確立を図る。
- (3) 支持的風土をつくる学級経営・生徒指導の三つの機能を生かした授業の日常化・学びに向かう集団づくりを進める学級活動及び生徒会活動の充実等により、自主性を高める取組を実践し、互いに高め合える集団づくりを図る。
- (4) 小学校・家庭・地域と連携し、「家庭学習の習慣化」「規範意識・マナーの向上」「生活リズムの確立」「対話の充実」等、校区内共通実践事項への取り組みや学習を支える力の育成を行い、学習意欲を高める取り組みを日常化する。
- (5) 学力向上マネジメントを機能させることにより、学力向上の具体的な到達目標を共有し、手立ての明確化・徹底した取り組み、評価と連動した改善を行うことで、実践意欲を高め、学校全体で授業改善を推進し、生徒の学力の向上を図る。

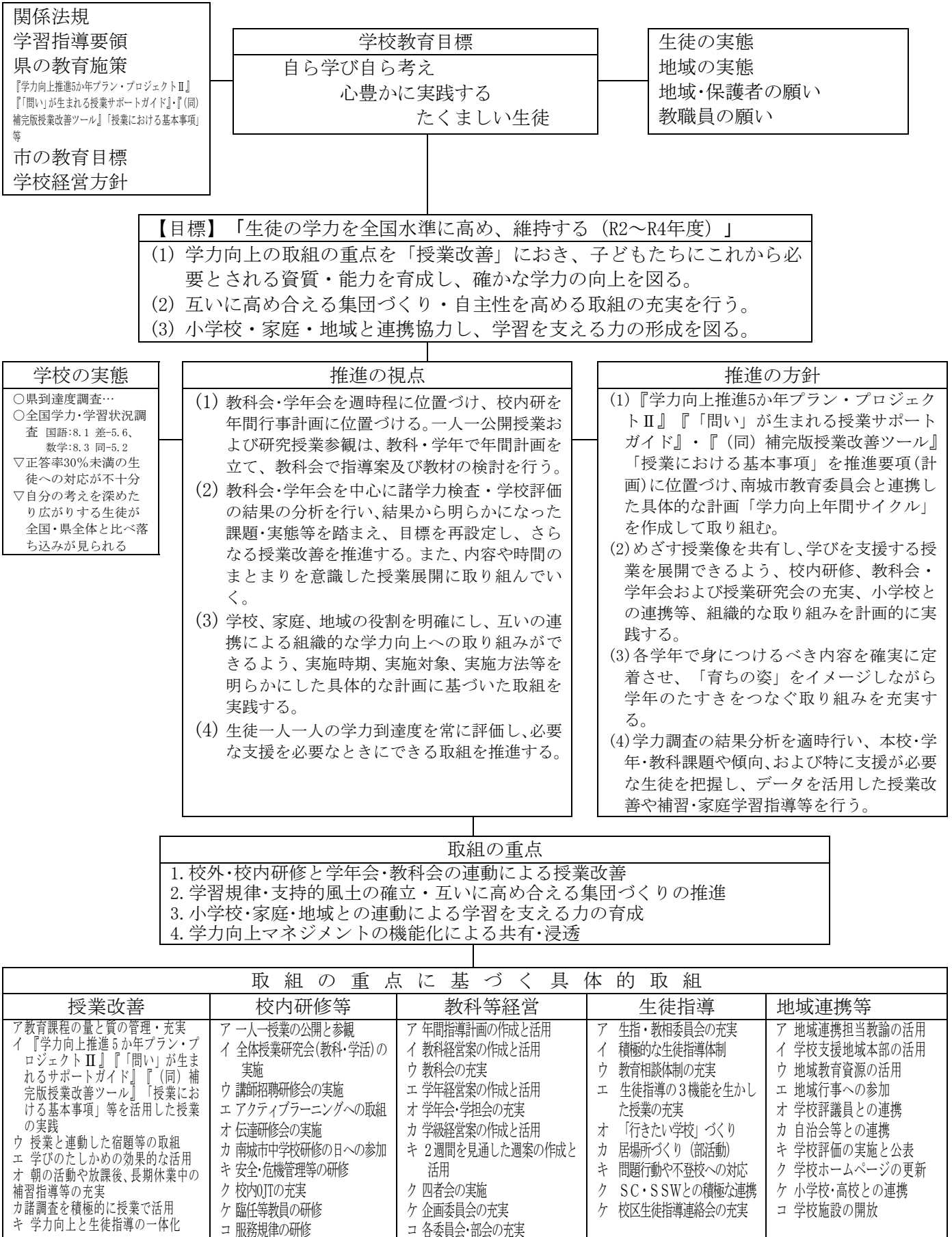
4 推進の視点(重点をどのような方向でやるか)

- (1) 教科会・学年会を週時程に位置づけ、校内研修を年間行事計画に位置づける。一人一公開授業および研究授業参観は、教科・学年で年間計画を立て、教科会で指導案及び教材の検討を行う。
- (2) 教科会・学年会を中心に諸学力検査・学校評価の結果の分析を行い、結果から明らかになった課題・実態等を踏まえ、目標を再設定し、さらなる授業改善を推進する。また、内容や時間のまとまりを意識した授業展開に取り組んでいく。
- (3) 授業改善の視点を明確にし、共通実践を行い、年間3回（4月末、9月末、1月末）生徒にアンケートを実施する。その結果を教科会や学年会で確認し、更なる授業改善に取り組む。
- (4) 生徒一人一人の学力到達度を常に評価し、必要な支援を必要とときにできる取組を推進する。

R3 成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県到達度調査で県平均・・・ ○ 全国学力調査 国語:8.1 差-5.6、数学:8.3 同-5.2 ○ 年度当初に授業改善の視点を明確にし、全職員で共通実践を行い、年間3回の生徒アンケートで評価・改善することができた。
R3 課題(前年度継続)とR4 方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 学年職員全員でTT指導(学習規律の徹底) ● 30%以下生徒への手立て不十分 → 放課後の時間を確保 ● 自分の考えを深めたり広がりする生徒が全国・県全体と比べ落ち込みが見られる

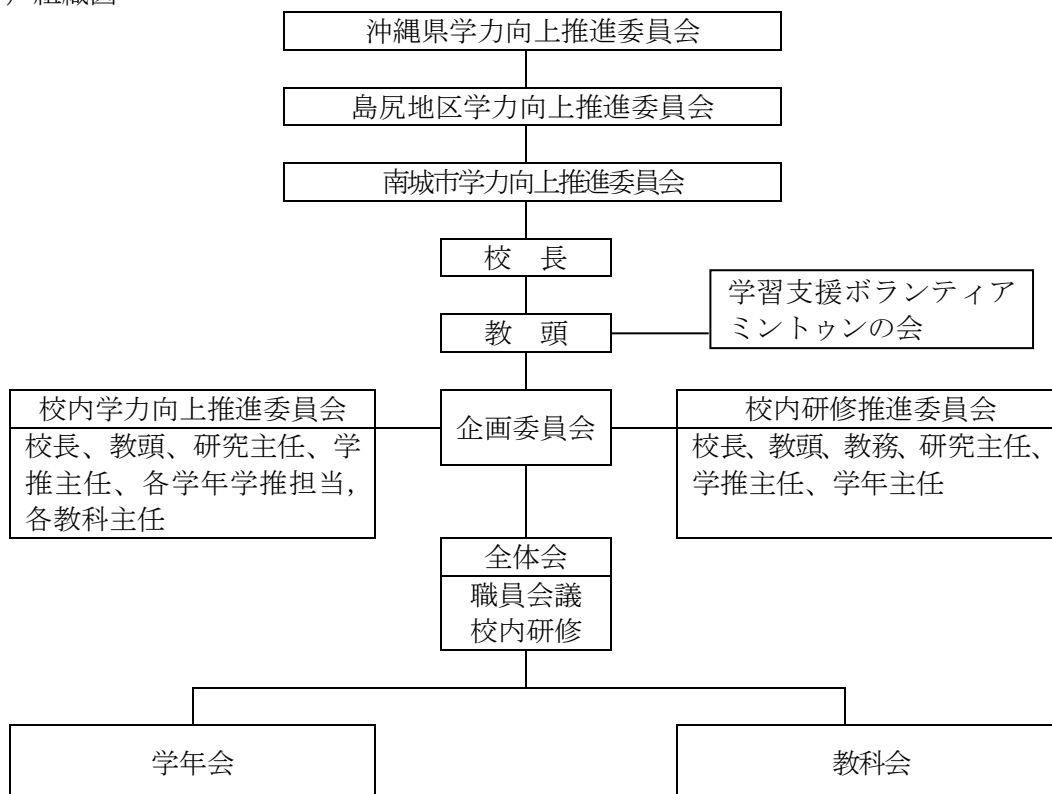
5 全体計画

学力向上推進の全体構想図



6 推進体制

(1) 組織図



(2) 南城市共通実践事項

- ① 集会前、授業前に「2分前着席」「1分前黙想」を行い、心を落ち着けてか授業を開始し集中力を高める。
- ② 「知・徳・体」の3つの学校教育目標を学年、学級、生徒まで連鎖させ、自ら学期ごとに目標設定・評価を学校全体で行わせ、責任感や自己管理能力を育成する。

(3) 校内学力向上推進委員会の取組

- ① 南城市学力向上推進委員会等との連絡調整を図りながら、校内の学力向上対策のための諸企画を発案し、企画委員会に提案する。
- ② 企画委員会での決定を受け、学力向上推進のための諸企画を職員会議に諮る。また、学力向上推進のための具体的な方策を学年会や教科会、学年部会、専門部会へ提案していくとともに、各意見をまとめるなど研究推進の連絡調整の中心になる。
- ③ 基礎・基本タイムの実施方法を検討し実践する。
- ④ 立志タイムの実施方法を検討し実践する。
- ⑤ 小・中連携授業研究会を企画、実施する。
- ⑥ 授業改善の視点を明確にし、共通実践を行い、年間3回（4月末、9月末、1月末）生徒にアンケートを実施する。その結果を教科会や学年会で確認し、更なる授業改善に取り組む。

(4) 学年部会の取組

- ① 学力向上月間の取組み（補習指導等）
- ② 取組の重点に基づき、担任会、学年会等で共通理解し、具体的に取り組む。
- ③ 立志タイムの実施方法を検討し実施する。
- ④ 家庭学習の実施方法を検討し実施する。
- ⑤ 各種調査の分析・課題の把握を適宜行い、授業改善に生かせるようにする。
- ⑥ 長期休業中の補習を計画し、実践する。

(5) 教科会の取組

- ① 各教科で指導方法改善に向け目標を設定し、教科会の充実を図る。
- ② 諸学力調査(全国・県・市)の目標値を設定し、その対策および、分析・課題の把握・手立ての推進を行う。
- ③ 基礎・基本タイムの課題を、授業の進度に沿った問題や各種調査の過去問等を中心に準備する。

- ④ 立志タイムの課題を作成し、実施する。
- ⑤ 家庭学習の課題を作成し、実施する。
- (6) 学習支援ボランティア「ミントウンの会」の活用
- ① ミントウンの会とタイアップしたサマースクールを7月下旬に3日間程度開設する。各学年主任を中心に計画立案するが、受講は希望制とし、開設教科は教科会で決定する。(担当独自に、この時期以外に設定することも可能)
- ② 基礎・基本タイムの開設 5月～3月
- ③ 課題(問題)は、基礎基本問題を中心に、授業の進度に合わせた問題や各種調査の過去問等を中心に各教科で準備する。
- ④ 随時、教科及び学年に応じた活用を図る。

7 活動計画

	全体	学推担当	学年	教科	備考
4月	学力向上推進計画の確認 学力向上強化月間 全国学力・学習状況調査 市標準学力調査(1・2年) 立志T説明・計画・実践 基礎・基本タイム準備	学力向上推進計画の確認 学力向上フォーカスシート作成 学力向上月間の取り組み計画提案 立志T説明・計画・実践 基礎・基本タイム準備 全国学力・学習状況調査及び標準学力調査準備・まとめ	学力向上月間の取り組みの確認 立志タイムの説明・計画・実践 基礎・基本タイム準備 学力向上月間反省(アンケート実施)	立志タイムの計画・実践 基礎・基本タイムの準備	教科経営案・研究計画作成 学期評価基準設定
5月	学力向上月間の反省 立志タイム 基礎・基本タイム	学力向上強化月間反省(アンケート集計)	全国学力学習状況調査(3年) 市標準学力調査(1年:国算・2年国数英) 立志タイム 基礎・基本タイム	全国学力学習状況調査の対策(国語・数学) 立志タイム 基礎・基本タイム	授業改善プランの提出 学校公開日 計画訪問(市教委)
6月	基礎・基本タイム 立志タイム 学びのたしかめ	基礎・基本タイム 学びのたしかめ実施確認	基礎・基本タイム 立志タイム 学びのたしかめ	立志タイム 基礎・基本タイム 学びのたしかめ	30%以下補習 生徒選択
7月	基礎・基本タイム 立志タイム サマースクール	サマースクール取組準備	立志タイム 基礎基本タイム サマースクール検討	立志タイム 基礎・基本タイム サマースクール検討	サマースクール(ミントウンの会)との調整
8月	夏季研修 学力向上月間準備	サマースクール取り組み反省 学力向上月間取組準備 市学推会議資料作成(9月の学力向上月間の取り組み) 標準学力調査・全国学調分析・職員への共有	サマースクール取組反省 9月の学力向上月間の取り組み準備	サマースクール取組反省 標準学力調査・全国学力学習状況調査の分析	
9月	学力向上強化月間 標準学力調査・全国学力 状況調査結果分析の共有 立志タイム 基礎・基本タイム	学力向上月間 市学推会議	学力向上月間取組 立志タイム 基礎・基本タイム 学力向上月間反省(アンケート実施)	立志タイム 基礎・基本タイム	
10月	学力向上月間の反省 基礎・基本タイム 立志タイム	学力向上強化月間反省(アンケート集計) 学校評議委員会への学校取り組み発表	市学力調査(3年) 基礎・基本タイム 立志タイム	市学力調査(3年) 立志タイム 基礎・基本タイム	
11月	基礎・基本タイム 立志タイム 学びのたしかめ	学びのたしかめ実施確認	立志タイム 基礎・基本タイム 学びのたしかめ	立志タイム 基礎・基本タイム 学びのたしかめ	
12月	基礎・基本タイム 立志タイム 学校公開日	学力向上月間取組準備 地区・市学推報告書提出 冬課題の確認	立志タイム 基礎・基本タイム 学校公開日	立志タイム 基礎・基本タイム 学校公開日 冬課題の提示	

	全体	学推担当	学年	教科	備考
1月	学力向上強化月間 学校公開日 立志タイム 基礎・基本タイム	学力向上月間取組確認 学校公開日	学力向上月間取組 立志タイム 基礎・基本タイム 学力向上月間反省 (アンケート実施)	立志タイム 基礎・基本タイム 学校公開日	
2月	学力向上強化月間 県到達度調査(2年国語・数学・英語・1年数学) 立志タイム 基礎・基本タイム	県学力到達度調査実施 学力向上強化月間反省(アンケート集計)	立志タイム 基礎・基本タイム 県学力到達度調査(2年国数英・1年数学)及び分析 学力向上月間取組	立志タイム 基礎・基本タイム 県学力到達度調査(2年国数英・1年:数学)及び分析	基礎・基本タイム(ミンタウンの会)の年間の反省
3月	学力向上強化月間 立志タイム 到達度調査の分析 1年間の取組のまとめと次年度計画 春休みの課題準備	県学力到達度調査分析 次年度計画作成 WEBテスト実施確認	立志タイム 学力向上月間取組	立志タイム 県学力到達度調査分析及び春休み課題準備	

8 具体的な取り組み

(1) 家庭学習の取り組み

① ねらい

弱点補強や基礎・基本の充填のため、『家庭学習習慣化』の小学校からの取り組みを引き継ぎ、将来的には自分の弱点補充の意味での『家庭学習』、ひいては自己の課題解決のための『自己学習』へとつなげていく。

② 取り組み方法：4月より開始し、下記の方法で行う。

ア 教師側から提示された課題の取り組みを主に行う。

課題の例：教科のワーク・プリント等、単元前のレディネステストや基礎・基本の確認プリント、**タブレット端末の活用**、その教科に関する自由課題を行うこととしても良い。

※その週に習った1週間分の内容の定着をはかるもの等が望ましい。

イ 曜日毎に教科の課題を与える。

月	火	水	木	金	土	日
国語	理科	英語	社会	数学	自由 (技能教科等)	自由

ウ 設定教科以外の学習を行いたい場合は、設定教科を終えてから行うものとする。

エ 朝会などでの全体発表の作文・その他教師から依頼されたものがあれば、それを家庭学習と置き換えても良い。

③ 確認方法

原則として教科担任が提出の有無・内容のチェックを行う。(教科係がチェックを行っても良い) 土日の分に関しては学級担任が提出をチェックする。教科担任は、提出の有無を「家庭学習チェック表」に記入し、学級担任・学年と情報共有化を図る。

④ 家庭への協力依頼

ア 家庭学習の時間の確保(決まった時間に、決まった場所で)

イ 具体的な目標(めあて)をもたせ計画的に実行させる。

ウ 家庭学習、プリント等に目を通し、サインしていただくよう要請。

エ 子どもたちのがんばりをほめてあげ、次への意欲を持たせる。

(2) 立志タイムの取り組み

① ねらい

各教科における基礎基本(読み・書き・計算)の定着を目指し、朝の10分間(月・火・木・金)の取り組みを行う

② 取り組み方法

ア 10分間の課題(プリントや問題集)を行う。取り組む教科は学年で決定し、課題準備は各学年教科担当者とする。

イ 言葉を繰り返し書く、意味を繰り返し書く等の「繰り返し学習」の形式でもよい。習熟度別に配慮が出来るよう、表裏に分けたほうが望ましい。

ウ 時間いっぱい、静かに、自力で取り組ませ、学習規律の徹底を図るために学年全職員で指導する。(朝の正門指導の職員などは除く)

エ 終了後、プリントの取り扱いは教科担任の指示に従う。

オ 使用するプリントのデータを共有ファイルに蓄積するなど、各教科で工夫する。

- (3) 基礎・基本タイム（学習支援ボランティア「ミントウンの会」による放課後の学習）
- ① 時間帯：原則として第2・3・4水曜日 帰りの会后 16:10～16:45（B・C日課 16:00～）
 - ② 基本方針

ア 5教科のうち、実施希望教科を実施する。（前年度で実施の可否を決定する）

イ 受講は希望制を原則とする。

ウ 課題は、各学年の教科担当教諭が準備する。課題と解答を1週間前に準備し、事前に教頭を通じて、ミントウンの会の先生方に渡しておく。

エ 各教室に学年の職員を1名程度配置する。配置については教科担当に一任する。

オ 受講を希望した生徒が、受講日に都合により受講ができない場合は担任に申し出る。担任は理由を確認し、学年の教科担当に連絡する。

9 学力向上強化月間（4月・9月・1月～3月）の取組

- (1) ねらい
南城市学力向上対策推進協議会が、幼児児童生徒に基礎学力の定着を図るために設定した4月・9月・1月～3月の学力向上強化月間に沿って、学校・家庭・地域が連携しあって、家庭学習の習慣化と、基本的な生活習慣の形成を図る取り組みを実施する。
- (2) 方針
 - ① 授業改善の視点を明確にし、全職員で、共通実践を行う。
 - ② 立志タイム・家庭学習や、ミントウンの会等の学習支援ボランティアの充実を図る。
- (3) 期日及び方針
 - ① 4月：学習規律徹底月間
 - ア 学習を支える力の育成（規範意識・マナー）、学習環境の充実、支持的風土のある学級作りを行う。
 - イ 全国学力調査・標準学力調査に向けて取り組みを行う。
 - ウ 立志タイム・家庭学習の定着・内容の充実を図る。
 - エ 学力向上月間の取り組みを確認し、全職員で共通実践を行う。
 - ② 9月：学習やる気アップ月間
 - ア 生活リズムの再確認を行う。（立志タイム・家庭学習の定着・内容の充実を図る）
 - イ 全国学力・学習状況調査の分析、夏季休業中の校内研修、5月の学力向上月間の振り返り等を受けて授業改善を図り、生徒の課題にあった学力向上の支援を行う。
 - ウ 学力向上月間の取り組みを確認し、全職員で共通実践を行う。
 - エ 6月の学びのたしかめの分析結果より、生徒自己の課題を把握させ、個人内目標を持たせるようにする。
 - ③ 1月～3月：学習ステップアップ月間
 - ア 高校入試や県学力到達度調査に向け、2月末には当該学年の教科書を終えるように授業計画を立て実践する。
 - イ 高校入試や県学力到達度調査に向けての立志タイムや家庭学習の充実を図る。
 - ウ 3月は一年間のまとめを行い、教科書範囲を終了後、当該学年の学習の定着が図れるよう、学力状況調査等の結果を元に落ち込みのある分野を補充する。
 - エ 生徒の学びの意欲の向上のため、キャリア教育の視点を踏まえた確かな学力の育成を行う。
 - オ 11月の学びのたしかめの分析結果より、生徒自己の課題を把握させ、個人内目標を持たせるようにする。
- (4) 取り組みの内容
 - ① 学校の取り組み
 - ア 全教科で授業改善を進め、基礎・基本の定着を図る取組および学習に課題がある生徒への支援を行う。
 - イ 補習の時間を設定し、基礎教科について教科担当を中心に取り組む。
 - ウ 全国学力状況調査、県到達度調査、標準学力調査、学びのたしかめ等の結果を分析し、授業の中で基礎学力の定着のための取組を行う。
 - エ チャイム着席（2分前着席・1分間黙想）の取組を徹底して行う。
 - ② 家庭への協力依頼
 - ア 家庭学習の時間の確保（決まった時間に決まった場所で）
 - イ めあてをもって計画的に学習をさせ、その様子をできるだけ見守る。
 - ウ 家庭学習ノート、プリント等に目を通し、サインをしてもらう。
 - エ 子どもたちの努力を賞賛し、次への意欲を持たせる。
 - オ 親子で読書タイムを作る。
 - ③ その他
 - ア 各学年で学力向上強化月間の話し合いを持ち、目標、具体的取り組み、評価・支援方法等を計画し、実施する。
 - イ 各調査結果の分析を踏まえ、各教科で課題に取り組む。